

色鮮やかに咲き誇る

スカシユリの花回廊

6月下旬、大津喜市さん、大津キエ子さんご夫婦（館ノ腰）の畑で30種類、約8,000本のスカシユリが見頃を迎えました。

震災後、長年にわたり続けていた、たばこの栽培をやめ、その後始めたスカシユリの栽培も今年で7年目。例年この時期になると、この見事な花回廊を一目見ようと全国からたくさんの方が訪れます。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響もあってか「今年は見頃の時期になっても、例年の半分も見に来る人はいなかったですね」と少し寂しげな顔で喜市さんは言います。続けて「でも、たくさんの方がこの花を見れなくても、見に来てくれた人が少しでも元気になってくれたら嬉しいんです。それがこの花を育てる原動力になっているんです」と話してくれました。

大津 キエ子さん 〓 館ノ腰 〓

大津 喜市さん 〓 館ノ腰 〓





始まりはたった5球の球根

大津さんご夫婦が8,000本のスカシユリを咲かせるための準備を始めるのが前年の秋頃。子種の採取や球根の植え替えを行います。その後、花が咲くまで消毒や追肥を数回行い、約半年かけスカシユリの花回廊は完成します。

7年前、花壇の隅で5球から始めたスカシユリの栽培も今では7アールの畑で行うほどにまでなりました。訪れた人からは「これほどの花を咲かせるのは大変だな」「年を取って休みたいと思わないかい」とよく言われると喜市さんは言います。

しかし、喜市さんは「綺麗な花を咲かせるために苦労は当たり前。私は、人一倍意地っ張りなのでどんなことがあっても綺麗に咲かせようと頑張っています」と笑いながら話してくれました。

どんな時も二人三脚で

スカシユリの花回廊を見に行くのと、いつも2人で作業をする大津

さんご夫婦がいる風景もまた、この場所の見所です。「大変だと思っただことはありません。綺麗な花が咲いたとき、それがとても嬉しくて」と妻のキエ子さんは言います。喜市さんもまた「私も小さい頃から花が好きなのであまり苦には思いませんが、何より、いつも何も言わずに付き添ってくれる妻がいるからここまで頑張れました。今までもこれからも二人三脚で頑張っていくます」と力強く話してくれました。

咲き誇るスカシユリと笑顔

6月24日、富田幼稚園と川俣南幼稚園の園児たちがスカシユリを見学に訪れました。スカシユリを間近で見た子どもたちからは「僕の身長より大きいよ!」「とっても綺麗な花だね!色んな色があるよ」と色鮮やかに咲き誇るスカシユリの花回廊を歩き回り、喜んでる様子でした。その様子を見て嬉しそうに微笑む大津さんご夫婦。来年もきつと、この場所でたくさん笑顔が咲き誇ることでしょう。

